

指定管理者評価シート

一 管理運営の状況

1 施設名	仙台市市民活動サポートセンター	
2 指定管理者	特定非営利活動法人せんたい・みやぎNPOセンター	
3 指定期間	令和2年4月1日～令和7年3月31日	
4 施設の利用状況	《利用者数》 令和4年度 37,513人(前年度比 152.6%) 令和3年度 24,583人 令和2年度 20,807人	
	《事業》 情報収集提供事業、相談事業、市民活動の促進及び協働の推進に資する各種事業(人材育成事業、協働に関する理解促進及び機会創出事業、調査研究事業)の実施等	
5 収支の状況	《費用》 ()は前年度決算額 ・ 指定管理者に支払った費用 99,770千円(98,623千円) ・ その他市が負担した費用 83,931千円(84,107千円)	
	《収入》 ・ 使用料収入 9,535千円(6,543千円) ・ その他収入 988千円(913千円)	
6 利用者の声	《実施状況》 ・ 「貸室利用票」の意見・感想記入欄による貸室利用団体へ随時意見聴取 ・ 来館者、施設利用団体へのアンケート実施(令和5年2月27日～3月27日) ・ 事務用ブース利用者情報交換会の実施(2回)	

二 管理運営に係る評価(モニタリングシートの結果によって評価)

評価分野	所見	評価
I 総則	日頃から職員に法令や服務規律等の遵守を周知・徹底するとともに、施設の設置目的に基づいた管理運営上の基本方針に基づき、適切な管理運営を行っている。施設利用者に対しても、ホームページ、館内掲示等により、施設の設置目的の周知が図られている。 また、施設目的達成のため、市民活動の促進や多様な主体間の協働を推進する取り組みを活発に行うとともに、他施設との連携にも努めている。	27/27
II 施設の運営管理体制	仕様書や事業計画書に定められたとおり職員を配置するとともに、業務分担表及びシフト表の整備により、各職員は他の職員の業務遂行状況を適切に把握している。また、経理担当職員を配置して、指定管理料を適切に執行している。個人情報保護や情報セキュリティに関しては、規定等を整備し、適切な体制が整えられている。また、問題が発生した際には、今後の改善策を講じるために、原因分析や職員間で情報共有を行う等の体制が確立されている。 災害時などの緊急時における役割分担については、職員の配置ポジションに連動した役割を事前に設定しており、シフト制での運営においても担当職員の出勤の有無により対応が左右されないような工夫がなされている。	30/30
III 施設・設備の維持管理	定期的な点検のほか、職員による毎日の見回りによる点検を実施しており、かつ、爆破予告等の通知があった際は見回りの強化を行う等、利用者の安全性及び快適な環境が確保されている。普段から建物の所有者や管理会社と連絡を密に行うとともに、軽微なものは職員で修繕するなど、早期対応に努めている。備品や施設内の鍵の管理についても、適切に行われている。 また、環境に配慮した運営に努め、物品の購入時にはグリーン購入を積極的に行っている。	22/22
IV サービスの質の向上	各業務のマニュアル整備、ミーティングや接遇研修の実施により、利用者への適切なサービス水準を確保している。 また、利用者からの意見及び苦情を職員間で情報共有のうえ改善の検討を行い、施設の管理運営に反映させている。令和4年度においては、令和3年度実施のアンケートから、使用申込書の簡素化を行い、頻繁に利用する利用者の作業負担の軽減を実現した。 年度途中においては協定書及び仕様書の変更により、メールマガジン配信サービスや協働ゼミの企画を行い、市民協働の促進に取り組んだ。	28/28
V 施設固有の基準	仕様書に基づき、施設の使用許可や使用料徴収業務を適切に実施している。また、情報収集・提供や相談業務、ブログやSNSなどのWEB媒体を活用した積極的な情報発信やイベントの実施など、社会情勢に合わせた多様な事業を企画・実施し、市民活動の促進と協働によるまちづくりの推進に寄与している。	24/24

三 評価総括

《指定管理者（特定非営利活動法人せんだい・みやぎNPOセンター）による自己評価》
<p>コロナ禍を乗り越え市民活動や社会貢献活動を行う多様な主体の情報を、ブログで積極的に発信し、ブログの年間訪問者数は65,000件を超えた。</p> <p>相談対応では、市民活動団体をはじめ、企業や町内会、教育機関、行政などの多様な主体の活動相談に対応。活動相談の数(437件)が窓口利用相談(409件)を上回り、スタッフから市民活動団体への声かけ・訪問で活動状況をヒアリングした「その他」の相談も231件で前年度比118%と増加した。市民活動の現場訪問(32件)や、協働の実践者の訪問(15件)も積極的に行った。</p> <p>仙台市が展開する様々な協働支援の制度を活用した協働の実践を目指す「協働ゼミ」を初開催し、協働に取り組もうとする市民活動団体等の力付けを行い、定員を超える9団体の参加があった。</p> <p>多様な主体が社会課題について意見交換を行う「せんだい・みやぎソーシャルハブ」にはのべ193人が参加し、10代～30代の若者を対象とした活動者とまだ活動をしていない人の交流会「サポセンユースフェスタ」を初開催。26名が参加した。</p> <p>調査研究事業の進捗および知見を共有するための市民向け報告会を2回実施し、89名が参加。市民活動団体だけでなく、高校生、マスコミ、企業関係者、個人事業主など多様な参加者が活発に意見を交わし、それぞれの立場でできる社会貢献について考える機会を提供した。</p>

《施設設置者（仙台市）による評価》	総合評価
<p>事業の実施にあたっては、窓口及びオンラインを活用したコンテンツの配信や、講座の開催により、市民活動や協働の理解を深めた。SNSやブログ、ホームページを活用した情報発信にも取り組んできた。さらに、オンライン情報交換会の開催など、交流を促進する機会の創出にも取り組むことで、協働によるまちづくりの推進が図られており、コロナ禍においても市民活動サポートセンターとしての役割を十分に果たしている。</p> <p>当該年度では、NPO法人などの市民活動団体向け助成金情報を主に配信するメールマガジンや、他の組織と一緒に課題解決に取り組むための基本とノウハウを学ぶ協働ゼミの企画に、指定管理者としての知見を活かしながら取り組み、市民協働の推進に寄与してきた。外部の市民活動団体との交流会への参加に際しては、これまでサポートセンターを利用しなかった団体との情報・意見交換を通じ、8団体をアウトリーチ相談へと繋げることができた。</p> <p>また、長年の経験やノウハウを生かし、安定的な施設運営が行われており、新型コロナウイルス感染症への対応についても、ガイドラインに基づき感染防止策を徹底して行うとともに、施設の利用制限、使用料返還等の対応についても、適切かつ速やかに行っており、優れた管理運営を行っていたと評価できる。</p> <p>今後とも、市民活動の拠点としての施設目的が引き続き達成できるよう、着実な管理運営や事業実施を期待する。</p>	S

四 その他特記事項（上記評価項目の他に、指定管理者の優れた取組み等、特に記載すべき事項があれば記載する）

特記事項

◎ 評価担当課(施設所管課): 市民局市民活躍推進部市民協働推進課